

20世紀の始まりとともに創設され、数々の名演奏家との共演の歴史を積み重ねてきた、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団。ピアニストのための世界最高峰の登竜門、ショパン国際ピアノコンクールのファイナルで共演するオーケストラとしてもお馴染みの彼らが、2019/2020シーズン以来音楽監督を務めるアンドレイ・ボレイコとともに、久しぶりに来日する。

ソリストは、すでにボレイコと共演経験もある歴代のショパンコンクール優勝者たち。

2021年の覇者で、一躍世界の注目を集めるソリストとなったブルース・リウは、コンクールでは披露していないショパンの協奏曲の作品に挑む。演奏機会の少ない「ポーランドの民謡による大幻想曲」は、ショパンが20歳ごろに書き上げた作品。民族舞曲の要素がふんだんに取り入れられ、リズムカルで同時に甘美な歌にも溢れる。あわせて同じ頃に書かれたピアノ協奏曲第2番も演奏される。リウの生命力あふれるピアノは、若きショパンのパッションをどのように表現するのだろうか。ベートーヴェンの交響曲第7番という、

また別の舞踏のエネルギーを感じさせる作品とともに、華やかな時間を届けてくれる。

また2005年に優勝、ポーランド魂を具現化するような儼く強く美しい音楽で、ショパンの再来といわれたラファウ・ブレハッチは、シューマンのピアノ協奏曲を演奏する。コンクールから18年。時間をかけて大切に深め、またある種の自由に向かってきた彼のピアノイズムが、シューマンで花開く。

こちらの公演の冒頭に演奏されるのは、20世紀ポーランドの作曲家、ルトスワフスキの「小組曲」。ポーランド南東部の村の民族音楽に基づき、特別な響きとパワーを持つ。加えてシューマンと関係の深かったブラームスの交響曲第2番で、ワルシャワ・フィルの厚いサウンドも聴くことができる。

ボレイコ率いるワルシャワ・フィルの本領が発揮されるポーランド音楽の魅力、そしてポーランドの聴衆の心を掴んだピアニストたちの音楽性を、多彩なプログラムで味わえる。

音楽ライター 高坂はる香



©Mikhail Zingarevich

アンドレイ・ボレイコ (指揮)
ワルシャワ・フィル 芸術監督
Andrey Boreyko, Conductor
Artistic Director of Warsaw Philharmonic

2022/23年シーズンはワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽・芸術監督に就任して4シーズン目となる。近年のハイライトにはワルシャワ・フィルとのスペイン・ツアー、ロシア国立響とのドイツ・ツアー、スカラ・フィルとの欧州ツアーのほか、ロイヤル・スコティッシュ管、ケルン・ギョルツェニヒ管、ベルリン放送響、ウィーン放送響、RAI国立響、クリヴランド管、シカゴ響、ダラス響、サンフランシスコ・フィル、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィルなどに客演している。また今後、ハンブルク・フィル、ロンドン・フィル、ブラハ響などに再客演する。



©Zhenzhong

ブルース・リウ (ピアノ)
Bruce Liu, Piano (2月7日、11日 出演)

2021年第18回国際ショパン・ピアノコンクールで優勝。その後、パリ・シャンゼリゼ劇場、ウィーン・コンツェルトハウス、ブリュッセル・ボザール、東京オペラシティ、ロイヤル・フェスティバル・ホール等に出演。またワルシャワ国立フィル、ルクセンブルク・フィル、ポーランド国立放送響、N響、ソウル・フィルとも共演。ドイツ・グラモフォン専属アーティスト。ショパン・コンクールのライブ録音を収録したファースト・アルバムはフレデリック賞を受賞、2021年のベスト・クラシックアルバムに選出されるなど国際的に高い評価を受けている。



©Christoph Keelha

ラファウ・ブレハッチ (ピアノ)
Rafal Blechacz, Piano (2月8日 出演)

2005年第15回ショパン国際ピアノ・コンクールで優勝。これまでに、ウィーン楽友協会、ベルリン・フィルハーモニー、コンセルト・ヘボウなど世界の名だたるホールに出演。また、ザルツブルク、ヴェルビエなど主要音楽祭にも招かれている。デュトワ、ゲルギエフ、ハーディング、P. ヤルヴィ、ルイジ、ナガノ、ネルソンス、プレトニョフ、ヴィット、ジンマンなど世界的な指揮者と共演。2010年キジアナ音楽院国際賞(イタリア)を受賞。2015年にはポーランド共和国大統領メダルであるポーランド復興勳章カヴァレルスキ十字勳章を授与された。



©Witold Zdzienicki

**ワルシャワ国立
フィルハーモニー管弦楽団**
Warsaw National Philharmonic Orchestra

1901年創立。ワルシャワ・フィルはポーランド音楽界の中心的存在、そしてヨーロッパの音楽界においても主要な団体のひとつである。今日、5つの大陸で140以上ものコンサートツアーを行い、世界の主要なコンサートホールで演奏している。ショパン国際ピアノコンクールや「ワルシャワの秋」現代音楽祭でも定期的に演奏を続けている。ポーランド放送や国営テレビ(TVP)、ポーランド国内外のレコードレーベル及び映画会社との録音も行っている。2019/20年シーズンより音楽監督及び芸術監督にアンドレイ・ボレイコが就任している。

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団 その他来日公演日程

- 2月4日(日)★ ザ・シンフォニーホール [問] ABC チケットインフォメーション 06-6453-6000
- 2月5日(月)★ アクロス福岡シンフォニーホール [問]アクロス福岡チケットセンター 092-725-9112
- ※2月7日(水)◎ サントリーホール [問]ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212
- ★ブルース・リウ出演 ◎亀井聖矢出演 ※本公演を含む昼夜2公演開催

Twitterでフォローする @japan_arts

横浜公演(文化庁 劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業) (18歳以下無料)
対象：公演当日、小学1年生～18歳以下 ※限定202席
申込方法等詳細は、神奈川芸術協会ホームページの当公演ページにて、12月以降ご案内いたします。

〈特別割引チケットのお知らせ〉

(ジャパン・アーツぴあコールセンター及びジャパン・アーツぴあオンラインチケットで受付、横浜公演は神奈川芸術協会でも受付)

- ◎シニア割引(65歳以上):S席とA席を¥1,000割引でお求めいただけます。
- ◎学生割引(社会人学生を除く公演当日25歳までの学生):各ランクを半額でお求めいただけます。残席がある場合に限り、1月7日(日)10:00より受付を開始します。当日は学生証を提示の上、ご入場ください。(学生証がない場合、一般価格との差額を頂戴します。)
- ◎車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。(東京はジャパン・アーツぴあコールセンターのみで受付、横浜は神奈川芸術協会のみで受付)

(次のことあらかじめご承知の上、チケットをお求めください)①やむを得ない事情により、出演者・曲目・曲順等が変更になる場合がございます。②公演中止の場合を除き、お求め頂きたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合も再発行できません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮下さい。なお就学児以上の方もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全指定席です。指定の座席にてご鑑賞下さい。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。⑨他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。

長年にわたって研究を続けてきた、自身にとって最も大切なショパン作品

ショパン：ピアノ・ソナタ第2番・第3番

UCCG-45070 MQA/UHQCD ¥3,080(税込)
2023年2月22日発売

【収録曲】

- フレデリック・ショパン
- 1 ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 作品35(葬送)
- 2 夜想曲 嬰へ短調 作品48の2
- 3 ピアノ・ソナタ 第3番 口短調 作品58
- 4 舟歌 嬰へ長調 作品60

ラファウ・ブレハッチ (ピアノ)
録音：2021年9月27日-10月1日
テルデックス・スタジオ、ベルリン



Rafał Blechacz

2021年ショパン・コンクール覇者、ブルース・リウ初のスタジオ・アルバム!

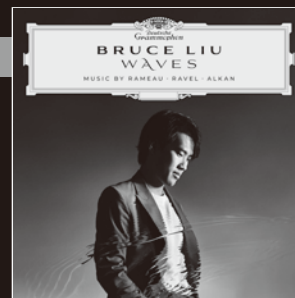
ウェイブス〜フランス作品集

UCCG-45085 MQA/UHQCD ¥3,080(税込)
2023年10月11日(水)発売

【収録曲】

- 1 ラモーン：ガヴォットと6つのドゥーブル RCT 5/7
- 2 アルカン：舟歌 作品65の6
- 3 ラモーン：未開人たち RCT 6/14
- 4 8 ラヴェール：組曲《鏡》M.43
- 5 アルカン：イソップの饗宴 作品39の12
- 6 ラモーン：優しい嘆き RCT 3/1
- 7 ラモーン：一つ目の巨人 RCT 3/8
- 8 ラモーン：新クラヴサン組曲 第5番 RCT 6(メヌエット+II)
- 9 ラモーン：めんどり RCT 6/12

ブルース・リウ (ピアノ)
録音：2022年11月23日-27日 ベルリン



BRUCE LIU